

学校の新しい様式の確立を目指して

県南教育事務所長
加治 行雄

新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言の発令に際して、各学校ではリモート学習を含め様々な対応にご尽力をいただき、本当に有難うございます。状況に応じて様々な活動を生み出していただき、心から感謝いたします。不便や不自由な中での発想や創造は、新しい様式を確立するための基盤となり、これからの財産になると信じています。県南教育事務所は、これからもできる限り最新の情報を提供しながら、管内各市町村及び学校を支援していきたいと考えています。今こそ、各学校と市町村教育委員会、県南教育事務所が丸となり、邁進する時だと思っています。

総務課

児童手当支給事務の誤りについて

今年度の6月期児童手当の支払いにおいて、次のような誤りが見られました。次回以降の支払いの際にご注意願います。なお、児童手当関係手続を行う際には必ず「給与事務の手引き」をご確認ください。

- 1 職員番号の誤り。
- 2 県南教育事務所管内に転入（採用）した職員の所要額調べや口座振込依頼書の提出漏れ。
- 3 第1子が18歳に達した日の属する年度が終了した際の支給対象者数の変更及び額改定漏れ。
- 4 15歳到達年度に受給者が異動になった場合の支給所属の誤り。
- 5 県立附属中学校や特別支援学校等に転入・転出した場合の支給所属の誤り。
- 6 所要額の報告漏れによる支給遅延。

人事課

★学校安全計画や危機管理マニュアルの検証及び見直し★

茨城県独自の非常事態宣言に続き、国の緊急事態宣言が発令され、新型コロナウイルス感染症の厳しい感染状況はまだまだ先が見えませんが、先生方のご対応に感謝申し上げます。校内全職員で共通理解を図り、引き続き感染症対策を講じた学校運営を進めてください。

もとより、子供たちが楽しく安心して学び、生活できる学校づくりに向けては、日々、ご尽力いただいているところとは存じますが、特に、学校安全計画や危機管理マニュアルについては、常に検証と見直しを図ることが大切です。管理訪問において、見直しの状況を説明していただいています。

個人情報の取り扱いにおける事故など、他校のヒヤリ・ハット事例を参考にして、事件・事故の未然防止に努めていただくようお願いいたします。

★★★信頼され 笑顔あふれる学校づくりのために★★★

学校教育課

令和3年度若手教員研修に係る指導教員研修会

「若手教員研修指導教員研修会」は、今年度初めて若手教員（初任者）研修に係る指導教員を務める方を対象に実施します。7月14日（水）は、協議「効果的な校内研修の実践」、「校内研修実施上の課題とその解決策」を行いました。参加者が持参したレポートからは、若手教員（初任者）の不安や迷いを軽減し、充実した教員生活が送れるよう、工夫を凝らした校内研修を実践していることが分かります。短い時間ではありましたが、指導教員として抱える悩みや課題を共有し、解決策について協議することができました。





牛久市教育委員会



一人残らず質の高い学びを保障する学校づくり ～ 安心と夢中の学校 ～

牛久市では、10年前より「授業を変えて学校を変える」取組を続けてきました。幼小中を通して日々の授業に協働的な学び（アクティブ・ラーニング）を取り入れることによって「ケアリング・コミュニティ（人間性等の涵養）」と「ラーニング・コミュニティ（資質・能力の育成）」の実現を目指してきました。

子供たちが「安心」して学び合うための基盤となる「聴き合う関係」をつくること、一人一人の学びを保障するためのペアやグループの在り方、すべての子供が「夢中」になり学びに挑戦できるような高い課題づくりなどに力を注いでいます。その実現のために「すべての教室を開くこと」「一人一人の児童生徒の学びの事実を固有名詞で語り合うこと」「常に最高の学びを求め続けること」を日常化してきました。こうした考えを児童生徒や先生方、さらに地域の皆様とも共有していくために、「教室に協働的な学びを実現すること」「職員室に学びの共同体と同僚性を実現すること」「保護者や市民が学校支援ではなく授業参加を通じた学校理解を深めること（社会に開かれた教育課程の実現）」に力を入れています。

「社会に開かれた教育課程」の実現とコミュニティ・スクール

学校運営協議会の委員が校内の授業研究に参加し、先生方と一緒に子供たちの学びを見取ります。一人ではわからなくて困っている子供が友達とつながることによって安心して学べたり、高い課題にチャレンジしていく中でグループやペアの力を借りながら深い学びを進めたりしていく様子を参観しています。授業後は、先生方と共に振り返りにも参加しています。「今まで、先生はグループに任せて教えていないと思っていたが、子供を学ばせることがこんなに難しいことだとは思わなかった」「授業で子供たちがいい顔になっていく様子を見ると、子供にとって授業がシェルターのようなものになっているのだと思った」など、授業を通じた深い学校理解が進んでいます。



公立幼稚園を核とした幼児教育センター事業

幼児教育の充実と小学校への切れ目のない接続のために、12年前より幼児教育センター事業を継続しています。保育士や幼稚園教諭の資質向上のために、公立幼稚園において茨城大学教職大学院の教授や大学院生（現職の特別支援学校教諭等）が行うモデル授業とその授業解説から、市内の保育士や幼稚園教諭、小学校教諭が学んでいます。巡回相談では、公私立を問わず、市内全ての幼児教育施設を大学教授や公認心理師が巡回し、保育士や幼稚園教諭、保護者の悩みに答えています。さらに、小学校区ごとの保幼小交流事業も進めています。

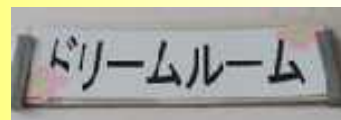
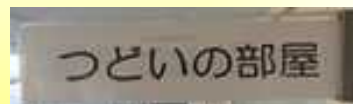


阿見町教育委員会

フリースクールの不登校対策室

阿見町では、町内3中学校すべてに不登校対策室（フリースクールの室）を設けています。不登校にならないための一時避難としての「別室指導」、学校（教室）復帰へのステップとしての「別室指導」をねらいとし、教室以外での居場所を保障しています。「学校の中で子供たちを支えたい、身近な人たちとできることは何か」と考え、設置に至りました。

運営は、それぞれの学校に配置された不登校対策指導員（校長経験退職者）を中心に運営しています。学級担任、教科担当者、学年職員、生徒指導主事（不登校対策担当者）、SCやSSW等と連携して学校全体で支援しています。阿見中学校は「つどいの部屋」、朝日中学校は「ドリームルーム」、竹来中学校は「学習室GR」とそれぞれ名称があり、親しみやすくしています。また、阿見町教育相談センター（やすらぎの園）とも連携して、やすらぎの園通所生の学校復帰も目指し、不登校対策室へとつながっています。令和2年度100日以上欠席した中学生の割合は、3.03%でした。



上から阿見中学校、朝日中学校、
竹来中学校の不登校対策室の教室表示

阿見町 ICT ラボ

個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指すGIGAスクール構想の実現に向けて1人1台端末環境を生かした学びのスタイルへの提案をしています。具体的には、ICT研修会の開催、ICTラボの設立（町内情報共有サイト）、ICT支援員の積極的な活用です。定期的な情報交換の場を設定し、好事例を町内で共有、児童生徒に学習用タブレットを使う場面の例示等、少しずつ内容が増えています。



教育情報ネットワーク上の

阿見町 ICT ラボ